

三洋商事 関西学院大学で社員が講義

業界大手の産業廃棄物リサイクル業者、三洋商事（東京本社・東京都江戸川区、大阪本社・東大阪市、社長・河原林令典氏）の社員下谷優花氏（地球環境・未来創造部）が

6月13日、関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス「教養基礎G（環境）」の講義において、ゲスト講師として登壇した。

下谷氏は「中小企業のSDGs、地球にありがとつを伝える企業の役割」をテーマに講演した。

講義では、同社のリサイクル事業や、SDGsの達成に向けた取り組みを紹介。事業に関係するごみ問題の現状や、解決のための「3R」について説明。「この講義を通して、学生たちが世の中で起

上から講義する社員の下谷氏、三洋商事のリサイクル事業やSDGsの達成に向けた取り組みを聞く学生



こっている問題と、身近な自分の生活を結び付けて考えられるようになれば良い。そして、自分の行動が、地球環境問題や社会課題解決につながることを意識できるようにする機会にしたい」（下谷氏）。

授業後の学生からのアンケートは次の通り。
▽「1人の100歩より、
自分一人では小さなことしかできなくても、みんなが少しずつ意識を変えることで、大きな変化につながると感じた。」
▽「地球にありがとつ」と

いうメッセージは、環境問題を他人事にせず、自分自身の行動を見つめ直すきっかけになった。

三洋商事は1957年の設立。従業員数は243人。CSR（企業の社会的責任）活動に注力している。具体的には、「地球環境・未来創造部」「おそうじプロジェクト」「SDGsスクール」「エコ・ファースト」「Sanyo」がとつチャレンジ2030」「環境絵本の配布活動」「チャレンジド雇用の促進」「女性活躍推進」などを積極的に推進している。

フレックスタイム制の導入、タイムカードの廃止など、特徴のある企業運営でも知られている。

